

ART VILLAGE

芸術の秋！ 新開地商店街には
喜楽館もオープンして、ますます

2018年7月11日、新開地の商店街にオープンした演芸場。昼は上方落語の定座として、
夜には市民に向けた貸し館として賑わう。(新開地2-4-13)

活気づいてきたなあ。1席ついでに

近くの名物居酒屋でかけつけ1杯、

焼鳥をお供に楽しみたいところ！

新開地本通りの近辺で飲むなら、7種類のメニューが揃い名店「鳥八」(新開地2-4-4)、
斜めの焼き台が特徴の老舗「八栄亭 上店」。(新開地2-6-15)

さて、秋から年末にかけては、

KAVCとアーティストによる

アウトリーチプログラム（今年で

2013年から続く、KAVC×兵庫大開小学校5、6年生×イラストレーター・山内庸資さんによるプロジェクト「NEW OPEN AREA」。
「自分たちが住むまちを見る」をテーマに、フィールドワークで得たアイデアから作品を制作・展示。詳しくは中面「BACK STORY」にて。

6年目です！）もはじまるで～！

ちょっと肌寒うなってきたても

芸術の秋を感じにきてや！

ART VILLAGE VOICE — CONTENTS

BACK STORY

NEW OPEN AREAの場合

STORY KAVC保安のおっちゃん今昔物語 | STAFF's VOICE KAVCからのお知らせ

KAVCと行く！新開地探訪 ～子どもの視点でまちを見る～

KAVC これ、見た？ REVIEW レビュアー：鶴飼慶樹 | 新開地新名物 vol.3 新開地の新しい文化・伝統の拠点「神戸新開地・喜楽館」

EVENT SCHEDULE 2018.10-12 | 神戸みちくさ天国 | 一問一答 Q：大森一樹 A：青木伸和

www.kavc.or.jp

NEW OPEN AREA

の場合



KAVC広報
大泉愛子さんが考える

「地域にある
アートセンターの役割」

KAVCは、美術館や博物館のように、常に作品がある訳ではなく、まちなかにあるけれど公民館でもありません。だからこそ、アーティストも鑑賞者も、はたまた休憩する人も、いろいろな人を受け入れていくことできる。また、子どもやアーティストといった、地域をこれまでにない視点で見る人たちと、地域をつなげる媒介にもなれる。まちも社会の流れも日々変わりつつある今、こうあるべきという公共施設の役割に縛られず、柔軟に考えていく態度を持ち続けたいと思います。

2014

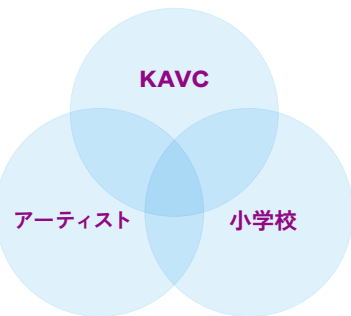


地域の小学校と協力し、
作品を見る・話す試み
を継続して考える

2013年の取り組みに可能性を感じ、兵庫大開小学校の協力を得て企画。「自分たちが住むまちを見る」をテーマにアーティストの視点を通して子どもに創作の魅力を感じてもらうプログラムを実施。作品をつくり展示を考える、学びのプロセスを試行錯誤しました。

KAVC・アーティスト・地域の小学校とつくる
アウトリーチプログラム「NEW OPEN AREA」

2013年にスタートした「NEW OPEN AREA（以下、NOA）」は、2018年度で6年目を迎えます。兵庫大開小学校5・6年生の各クラスとともに年ごとテーマを設け、創作活動を行ってきました。本プロジェクトを通して、地域のアートセンターが担う役割を模索してきたKAVC。ここでは、その変遷をたどり、これまでの活動を紹介していきます。



2013

鑑賞教育の授業との
コラボレーション！

イラストレーター・山内庸資さんに展覧会を依頼したのがスタートでした。そのなかで、山内さんが兵庫大開小学校4年生のクラスに作品を解説し、それを受けてさまざまな視点で語る生徒たち。作品に対するまなざしから生まれるコミュニケーションのあり方に、可能性を感じる機会となりました。



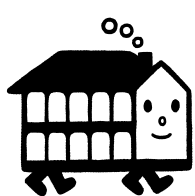
鑑賞授業では、
こんな声が
上がっていました！

アイデアは
どのように出ますか？

絵はどうしたら
うまくなりますか？

観察するとき
何をしていますか？

山内さんが関わる
地域の取り組み
「シオヤプロジェクト」



神戸の西側、山と海に挟まれた小さなまち・塩屋を舞台に、関わるアーティストの視点を借りて、まちの魅力を発信するプロジェクト。盆踊りの踊り方を紹介するイラストの制作、まち歩きのスケッチワークショップなどを企画。
<http://www.shiopro.net/>



2015-
16



プロジェクトのスキームをつくり出す

- 1 | まちで
フィールドワーク
KAVC前の新開地商店街を
舞台に、まち歩き。風景の
スケッチを通して、新開地
の魅力をとらえていきます。
- 2 | 学校で
作品づくり
まち歩きで得たアイデアをも
とに、アーティストの協力を得
ながら、学校の図工の授業の
なかで、作品制作を行います。
- 3 | KAVCで
展示
完成した作品をKAVCへ持
込み展示。子どもたちの
作品の魅力を紹介する展示
を考えます。

ピクニックコーディネーター／
ランドスケープデザイナー
對中剛大さんが考える

僕は、本プロジェクトのなかで食を題材としたワークショップを企画しています。「食」は、世界共通の言語。美味しいという感覚を共有し、誰と、どこで、何を食べるか。それは、ものづくりやデザインに似た思考です。例えば、2016年は「おむすび」をテーマとしました。塩加減と握る力加減

「つくり、考える
ためのきっかけづくり」

で味が変わるマジックのような料理を通して、自分でつくったものとか人のものとの違いを考える。シンプルなものづくりだからこそ、対話や学びを生むきっかけになるのだと思います。



KAVCが取り組む
地域の活動



KAVC×山猫団×三田村管打団？
「新開地カブキモノ大行列」
新開地商店街を練り歩きながらパフォー
マンスを行う、一般参加可能なイベント。
※詳細は本誌「神戸みちくさ天国」コーナーを参照



新開地土曜マルシェ
「まちぐらしをもっと楽しく」をテーマ
に、開催される月に1度のマルシェ。

デザイナー
近藤 聡さんが
考える

「まち歩きがもたらす
創造性について」

新開地エリアの魅力は、さまざま人がいて距離感が近いところと、古くからの個人商店が現役で残っているところ。画一化をされていない部分では、生々しい生活感がまだあり、子どもたちとフィールドワークをしていると、知らないおじさんやおばさんが声をかけてきてくれて、話ができる。その経験こそ、ものをつくるときに礎になると思います。

クリエイターとともに、
新開地商店街を
見る・歩く

2015年はイラストレーター・山内さん、2016年からはデザイナー・近藤さん、對中さんも加わり、小学生と新開地をフィールドワーク。まちなかで発見した風景から着想を得て、5年生は「ランドマークづくり」、6年生は「まちのスケッチ」に挑戦。子どもたちが新開地をじっくり（再）発見していくための環境づくりや作品づくりのサポートを行いました。



イラストレーター
山内庸資さん

子どもたちが、まちのなかの自分たちの居場所をしっかりと考えて、わくわくしながら形にしていたのが印象的でした！

2017

「このまちにあってほしいもの」を
テーマに、思い思いの作品をつくる

小学校5・6年生とともに、まちを観察しながら歩き、見たもの・感じたものから、まちをより魅力的にするにはどうしたら良いかを考え、「こんなお店があったら良いな」を作品に。



2018

山内さん、近藤さん、對中さん、
6年目のNEW OPEN AREAを前に
今、考えていることを教えてください。

山内：初年度から兵庫大開小学校との関わりを持ちつつ、プロジェクトを進めてきたわけですが、毎年生徒が変わるので、その都度悩みながら、見えてくる課題に取り組んでいます。近藤さんと對中さんに参加いただいたのも1人では限界がある部分を、違う視点で見てもらえたと思ったからです。近藤：山内さんからチラシのデザイン依頼を受けたのが2016年でした。おもしろそうだからフィールドワークにも参加しました。小学生にとって、デザイナーやイラストレーターって、何を仕事としているのかわかりにくい人たちでしょう。それもあって、広報物の成り立ちを毎回説明する時間を設けています。

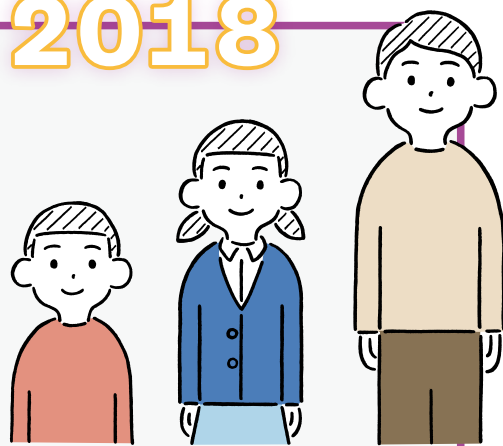
山内：3人が各々の視点で関わっているの、子どもたちにもこんな仕事があって、こんな大人がいるんだと感じてもらえたらいいですね。

近藤：でも、図工の授業に参加したんですけど、ちょっと絵の上手いおじさんくらいに思われているかも（笑）。短い時間で職能を理解してもらうのは難しいので、3人それぞれ着目点が何か違うぞと感じて「そん

などこ見てんねや」くらいが残ればいいのかなと思います。對中：僕はまちづくりや建築という視点で関わっているのですが、2017年は、展示期間中の節分にお面づくりと恵方巻きのWSを企画しました。食を通して、人と場所をつなぐきっかけをつくるというのが、テーマのひとつです。

山内：子どもだけでなく大人も参加していて、40人くらい楽しんでいましたね。對中：みんなが参加することで、つくりながら会話が生まれ、つながりができ、継続していくことで、まちのコミュニティが育まれる。ただ、2年では目に見える変化がわからないので、時間をかけてまちの風景を考えていきたいですね。

山内：10年くらい経って、彼・彼女たちが大人になり、新開地やKAVC、NOAに戻って話をするのができたら、ようやく何か見えてくるものがあるんじゃないかな。それを信じて、毎年彼らに向き合い、創意工夫をこらすというのが、今のところの展望でしょうか。



今年の
NEW OPEN AREAは、
12月8日(土)～16日(日)
の期間に開催します！

会場：KAVCギャラリー
開場：10時～20時
展示：山内庸資（イラストレーター）、
兵庫大開小学校5・6年生

関連ワークショップ
開催日：12月15日（土）
講師：山内庸資（イラストレーター）、
對中剛大（ピクニックコーディネーター／
ランドスケープデザイナー）

ART VILLAGE VOICE

ISSUE
86
Oct.-Dec. 2018

ART VILLAGE VOICE vol.86
発行日：2018年9月30日
発行元：神戸アートビレッジセンター
指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団
〒652-0811神戸市兵庫区新開地5-3-14
TEL 078-512-5500 FAX 078-512-5356
開館時間10:00-22:00
休館日 毎週火曜日（火曜が祝日の場合は翌日）、年末年始
編集ディレクション&編集：多田賢美・永江大（MUSUMI）
編集アシスタント：飯沼美津子（MUSUMI）
アートディレクション&デザイン：村瀬健太郎

KAVC EVENT SCHEDULE 2018.10-12

- 10 OCTOBER**
- 6日（土）—8日（月・祝）** 会場：リハーサル室2
市田京美 コンテンポラリーダンスワークショップ
～ヒナを運って2018～
講師：市田京美
- 6日（土）—19日（金）** 会場：KAVCシアター
『バンクシーを盗んだ男』（2017年/イギリス・イタリア/93分/配給 シンカ）
監督：マルコ・プロセルビオ
- 『人間機械』**
（2016年/インド・ドイツ・フィンランド/71分/配給アイ・ヴィー・シー）
監督：ラフール・ジャイン ※開演イベントあり
- 『若い女』**（2017年/フランス/97分/配給サンリス）監督：レノール・セラリュ
- ナショナル・シアター・ライブ 『アマデウス』
『オーディエンス』
- 12日（金）—14日（日）** 会場：KAVCホール
大川興業第42回本公演 暗潮演劇『イヤホン』
- 20日（土）** 会場：KAVCギャラリー
KAVC MUSIC Line STATION vol.5 「大友良英と音遊びの会」 関連トークイベント
『社会と音楽』
出演：大友良英（音楽家）、雨森慎（Breaker Project）、飯山ゆい（音遊びの会）
- 21日（日）** 会場：KAVCホール
KAVC MUSIC Line STATION vol.5 「大友良英と音遊びの会」
出演：大友良英、音遊びの会
- 27日（土）** 会場：KAVCギャラリー・1room
演出家・森田雄三解体シボ part 2 ～秋の身体文学まつり～
- 28日（日）** 会場：KAVCギャラリー
はじまりのみかん vol.1
「鉛筆を削ることからはじめよう～濃淡で描く～」
講師：安富洋貴（画家）
- 11 NOVEMBER**
- 10日（土）—23日（金・祝）** 会場：KAVCシアター
『あまねき旋律（しらべ）』（2017年/インド/83分/配給 ノンダコイ）
監督：アヌシュカ・ミナークラシ、イシュワ・シュクリマール
- 『ヴァンサンへの手紙』**（2015年/フランス/112分/配給 アップリンク）
監督：レティシア・カートン ※開演イベントあり
- 『暗殺のオペラ』**（1970年/イタリア/99分/配給 コアポア・フィルム）
監督：ベルナルド・ベルトルッチ
- 『ペルイマン生誕100年映画祭』**（配給 マジックアワー）
監督：イングマール・ベルイマン
上映作品：『夏の遊び』『夏の夜は三たび微笑む』『第七の封印』『野いちご』『地女の泉』『冬の光』
- 11日（日）** 会場：KAVCギャラリー
KAVC演劇人Play & Session vol.2
ゲスト：いむむなおき、ほか
- 18日（日）—25日（日）** 会場：KAVCギャラリー
##井（メッシュ）vol.04「カタチプリン」 発売記念！
ワークショップ&展覧会 ※18日はワークショップのみ開催
- 25日（日）** 会場：新開地商店街 KAVCホール
KAVC×山猫団×三田村管打団「新開地カブキモノ大行列」
出演：山猫団、三田村管打団、一般参加員
- 30日（金）—12月2日（日）** 会場：KAVCホール
劇団SE・TSU・N 第40回公演（side A）
『SANTA×CROSS』
- 12 DECEMBER**
- 8日（土）—16日（日）** 会場：KAVCギャラリー
NEW OPEN AREA 2018 ※詳細は画面「BACK STORY」参照
- 8日（土）—21日（金）** 会場：KAVCシアター
『つかのまの愛人』（2017年/フランス/76分/配給 コアポア・フィルム）
監督：フィリップ・ガレル
- 『恐怖の報酬（オリジナル完全版）』**
（1977年/アメリカ/121分/配給 コアポア・フィルム）
監督：ウィリアム・フリードキン
- 『夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年』**
（2018年/日本/66分/配給 イメージ・サラティ）
監督：今井友樹
- 『ベギー・グッゲンハイム アートに恋した大富豪』**
（2015年/アメリカ/96分/配給 SDP）
監督：リサ・インモルディーノ・グリーンランド
- ナショナル・シアター・ライブ
- 15日（土）** 会場：スタジオ1
ミュージアム・ワークショップ「研究発表2018 みんなの学芸場
『日本画をモノマネする』
講師：山下和也（日本画家・東洋美術管理技術者）

KAVCと行く！ 新開地探訪

～子どもの視点でまちを見る編～

神戸アートビレッジセンターを訪れたアーティストや制作者、研究者とともに神戸・新開地のまちを徘徊してみる特集企画。今回は、今年で6年目、KAVCの名物プロジェクトとなりつつある「NEW OPEN AREA」に関わる山内庸資さん、近藤聡さん、對中剛大さんと巡ります。小学生と行ったフィールドワークでさまざまな発見があったと話す山内さん。生徒とのやりとりを思い出しながら、もう一度、このまちの魅力を探ってみます。

山内庸資さん（イラストレーター）
近藤聡さん（デザイナー）
對中剛大さん（ピクニックコーディネーター/ランドスケープデザイナー）

text: 編集部 / photo: 衣笠名津美



まだまだ夏の強い日差しが残る。8月下旬の新開地商店街。首に汗をにじませながら、取材一行は川崎重工の工場や造船所などがある沿岸部へと向かう。

国道2号線を渡って稲荷商店街の路地裏を歩いていくと、台風や再開発などの影響なのか、荒れた建物、空き地がそのまま残されていた。日本最古のビリケンさんが祀られている松尾稲荷神社を抜けて、近藤さんがよくお子さんと行くという、駄菓子屋・六條商店へ。地藏盆の時期もあってお菓子が山積みになった店内を物色する。「子どもにお金を持たせて駄菓子を買ってもらっている隙に、僕は対面の中畑商店でホルモン串（1本50円！）とビールを頼むのが定番です（笑）」と近藤さん。

国道2号線を境にまちの雰囲気が変わる。道の東側は下町の雰囲気が残るまだ再開発の少ないエリアだ。一方、新開地のある西側は、震災以降に建設された（だろう）マンションが並び、かく言うKAVCも5階より上は居住フロアとなっている。しかし、路地に1歩踏み込めば、銭湯や立ち飲み屋、喫茶店など、昭和・大正に建てられたお店や施設が見られ、人々の営みの気配がビルの隙間からまちへと染み出している。また、映画館や劇場、ポートレースの発券所といった娯楽施設もまちの性格を表すひとつの要素だ。改めて、さまざまな時間、人の思惑が共存するまちなのだと、国道を隔てた隣町の様子を見て思う。

駄菓子片手に新開地へと戻る道すがら、3人が関わるプロジェクト「NEW OPEN AREA」で行った小学生とのフィールドワークを振り返った。「子どもたちはまちの成り立ちを頭だけでなく全身で感じながら、目に飛び込んでくるものに、平等に興味の矛先を向けていましたね。（近藤）」「たしかに。子どもの視点が入ることで、フィールドワーク自体が遊びのように、わくわくと開かれていく感覚でした。（對中）」このビッグマン（商店街の入り口にあるモニュメント＝チャーリー・チャップリンのシルエット）の足元



ク「むらさき」にも子どもたちは反応していました（笑）。（近藤）
1995年に起きた阪神淡路大震災で、建物の約7割強が全半壊してしまった記憶がこのまちにはある。KAVCの開館は地震の直後だったため、新たにまちなみがつくられていく過程に寄り添うかたちでこれまで活動してきた。ただ、今も変化の途上にある新開地を、震災を知らない子どもたちはどう見ていたのだろう。「震災が起こり、まちに新たな手が入ることで、“きれいな”になっていきます。それはある意味、これまで培ってきた文化がなくなるきっかけとも言えますよね。新しくなって気持ち良い部分と寂しい部分がどうしてもある。ただ、子どもにとって、その境界線って無いんですよ。これが面白い！と思ったら、まっすぐに関わる。その場面にいくわすと、彼らが今の時期にまちと向き合う機会を持てたことを良かったなと思います。（對中）」

まちの景観や文化、暮らしを守り、つくっていくために、何を愛でて、何を残し、何を新しく取り入れていくか。それをこの地域で育てていく子どもたちと考えていくためには、ひとまずプロジェクトを10年続けていきたいと語る山内さん。折り返し地点を越えた6年目の今年、KAVCにどんな展覧会、出来事をつくるのだろうか。

プロジェクトを10年続けていきたい。（山内）

にある、帽子のオブジェは大人気。普段通る人もしっかり見ていないから、帽子だとわかっていない人も多いんですよ。（山内）「あと、なぜカラオケスナック

これに面白い！と思ったら、まっすぐに関わる。（對中）

文化芸術に長年さまざまなかたちで関わる人たちが、今、注目するつくり手へと投げかける一問一答コーナー。

文化芸術に長年さまざまなかたちで関わる人たちが、今、注目するつくり手へと投げかける一問一答コーナー。

文化芸術に長年さまざまなかたちで関わる人たちが、今、注目するつくり手へと投げかける一問一答コーナー。

青木さんに質問です！
映画監督で生きていくのがとても困難な時代になりましたが、これから、映画監督としてやっていきますか？

大森一樹さん（映画監督）
答え：
さまざまな映画監督と関わってきたなかで、寛容な人が多いと感じています。映画を通してそんな人たちが増え、生きやすい世の中になるためにも、僕は映画を撮り続けたい。そうしたら人を幸せにできて、自身も幸せになれるのではないだろうかと思っています。

大森さんから見た青木さん

映画制作がデジタル化となり、数え切れない作品群で渾然一体となったインディーズ映画のなかでも、不思議なことに大阪芸大タッチといった作風は明確に存在する。「脱力系」というのだろうか。独特の間とニュアンス。青木伸和の映画は、まさにこの大阪芸大風の正統な後継。まだの一方はご覧あれ、「脱力系」を体感してください。

大森さんから見た青木さん

大森さん注目の青木伸和さん（映画監督）
あおき・のぶかず
愛知県出身。大阪芸術大学卒業。卒業制作「お歳暮のハムのひも」にて、沖縄国際映画祭U-25青年グランプリを受賞後、助成金にて「青島をぬいでみる」を製作。

「お歳暮のハムのひも」（2015）

青木さんが監督・脚本を手がけるコメディ映画。主人公・山口光弘を取り巻く個性豊かな家族の、3日間のドタバタを描いた群像劇。

その前に

居酒屋 赤ひげで、サクッと一杯ひっかけろ！

早い時間からお客さんと賑わう、赤暖簾が目印の居酒屋。壁面に所狭しと貼られた短冊には、だし巻きからあなごの天ぷら、小手煮や各種刺身まで、幅広いメニューが（どれもお手頃価格！）。頼み過ぎに注意して、ほろ酔い気分でいざ大行列へ。

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日



居酒屋 赤ひげで、サクッと一杯ひっかけろ！

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

赤ひげ 居酒屋
神戸市兵庫区新開地2-7-17
定休日：水曜日

新開地新名物

vol.3
「神戸新開地・喜楽館」



2018年7月11日に開館し、上方落語はもちろん東西落語、音楽、ダンスなど幅広く楽しめる演芸場。かつて「東の浅草、西の新開地」とうたわれたまちの文化を、現在につなぐ新しい拠点となっています。

神戸新開地・喜楽館 神戸市兵庫区新開地2-4-13

神戸新開地・喜楽館 神戸市兵庫区新開地2-4-13

神戸新開地・喜楽館 神戸市兵庫区新開地2-4-13

神戸新開地・喜楽館 神戸市兵庫区新開地2-4-13

神戸新開地・喜楽館 神戸市兵庫区新開地2-4-13

神戸新開地・喜楽館 神戸市兵庫区新開地2-4-13

神戸新開地・喜楽館 神戸市兵庫区新開地2-4-13



POLY1「日用第九」



アンサンブル・ゾネ「アンサンブル・ゾネのダンスの断片」

KAVC保安のおっちゃん今昔物語

今昔物語
作・画 鈴木裕之



KAVC 保安のおっちゃん今昔物語とは……

本館の隠れた主役、保安のおっちゃん3人衆が、ふとした瞬間過去にタイムスリップ?! KAVCのいまと古き良き新開地をちょっとだけ味わう、ドタバタ今昔コメディです。

作・画 鈴木裕之さん

本誌を機会に新開地デビューを果たした大阪出身・在住のイラストレーター。女性ファッション誌『SPUR』にて4コマ漫画「森のおしゃれっ子動物」を月イチ連載中!

今号のネタ

い い KOBE CINEMA PORT フェス 2018



会期: 2018年9月1日-30日
会場: 神戸アートビレッジセンター、パルシネマしんこうえん、Cinema KOBE、元町映画館

神戸に点在する個性豊かな4つの映画館がタッグを組んで開催した合同映画祭。期間限定の共通チケットを使用して、映画鑑賞や参加店舗での飲食などが可能。KAVCでは「淀川長治が愛した映画」特集、子ども向け特集の上映を企画。

むかし

湊川勤商場



今から約112年前
明治末期

写真提供: 神戸市文書館

1905年に旧湊川の埋め立てが完了し、新開地が誕生して間もなく、本通り沿いに建設された施設。1906年には、1階に電気館と日本館と呼ばれる映画館が開館した。ここで映画評論家・淀川長治氏の母親が映画鑑賞中に産気づいたと言われています。参考文献:『湊川新開地ガイドブック』(新開地アートストーリー実行委員会/2003)

STAFF's VOICE

→詳細はWebにて!

THEATER



事業アシスタント・前田のオススメは、「**新開地カブキモノ大行列**」! 商店街を練り歩き、輝くステージである日の夢を叶えたい! そんな願望をまとめて叶えちゃう企画です。ダンサーの長井江里奈さんは、まちをまるごと愛してくれる人。彼女が新開地を盛り上げるべく舞い踊り、三田村管打団?のパワフルな生演奏が彩りを加えます。新開地のまちとともに踊る“カブキモノ”をとくにご覧あれ!



ART



事業アシスタント・明田のオススメは、「**鉛筆を削ることからはじめよう〜濃淡で描く〜**」! 文化の入口に着目したワークショップシリーズ「はじまりのみかた」がスタートします。鉛筆で写真絵画を制作されている安富洋貴さんを講師に、描くための鉛筆削りを学びます。削り方によって線の強弱や色の濃淡を変えることができ、描く前の精神統一にもつながる大切な作業。ぜひ、その奥深さに触れてみてください。



CINEMA



映画担当・岡本のオススメは、「**ヴァンサンへの手紙**」! 10月~12月のKAVCシネマは、ドキュメンタリー映画をたっぷり上映。どの作品もさまざまな問題を提起していますが、なかでも当作品は手話がテーマ。こんな問題があるのかと気づかされ、とても考えさせられる一作です。関連企画イベントとしてワークショップも開催。ぜひ両方参加しにいらしてください!



OTHERS



運営担当・松宮のオススメは、**KAVC1Fにあるギャラリースペース**! 絵画はもちろん、写真、工芸、立体作品など多様な作品発表の場として、個展からグループ展まで幅広くご利用いただいています。毎年開催される自主事業の展覧会では、ギャラリーを中心にフロア全体を活かした展示も。12月にはKAVC×兵庫大開小学校×アーティストによる展示&ワークショップを開催!



神戸アートビレッジセンター

www.kavc.or.jp

指定管理者: 公益財団法人 神戸市民文化振興財団
〒652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14
TEL = 078-512-5500 FAX = 078-512-5356
開館時間 = 10:00-22:00 休館日 = 毎週火曜日
(火曜が祝日の場合は翌日)・年末年始



アクセス
・神戸高速「新開地駅」8番出口より徒歩約5分
・JR「神戸駅」ビエラ神戸口より徒歩約10分
・神戸市営地下鉄「湊川公園駅」東改札口より徒歩約15分